



地域を愛し、地域に愛される社協を目指して

第26号 2024 9/15発行

公津地区 社協だより

〈主な内容〉

- 社協会長挨拶……………1
- 『ふれあい・いきいきサロン』バス旅行……………2
- 認知症、スマホ講座……………3
- 福祉体験学習、江井須元気クラブの紹介……………4

発行者 公津地区社会福祉協議会
責任者 宮本 賢治
連絡先 080-6619-4277

成田市公津地区社会福祉協議会 令和6年度活動方針

「公津地区の皆様すべての 人を孤立させない取り組み」

公津地区社協では地域内の福祉に関わる団体や組織の方々に「こつこつブリッジ」への参加を呼びかけ、支え合いの仕組み作りを推進し、複雑多様化する福祉ニーズに応えて行きます。

★『元気クラブの発展』

活動を始めてから3年目になりました。地区別に協議し区、自治会等と協働にて開始された『地区元気クラブ』は9地区で取り組んでおり「介護予防と居場所づくり」を目指して行きます。

公津地域包括支援センターと協働で、更に開催地区を増やして参ります。参加された方からは大変好評で、参加希望者が増えて会場が手狭になって苦慮されている地区も有ります。

★『敬老会開催』

昨年5年ぶりに敬老会を開催することが出来ました。公津地区では初めて成田国際文化会館で開催、コロナ禍の余波が有り例年より少ない状況でした。今年度は昨年度よりも成功させるよう努力して参りました。本日は多数のご参加ありがとうございます。



令和6年度 役員		常任理事		書記		会計		監事	
会長	宮本 賢治	片寄 照文	遠藤美代治	小川 忠	折原 繁	吉岡 芳江	泉水 康男	小川 康子	木村 保男
副会長	村嶋 隆美	大谷 正子	清宮 英雄	谷 優	蕨 昭弘	伊藤 修一	中野 孝子	伊藤 修一	伊藤 修一

～春のぽかぽか陽気に恵まれて～ 『ふれあい・いきいきサロン』バス旅行



水族館も行けたし、美味しい食事もできたし、みんなとの旅行、何とお得な旅なんでしょう
(参加者Mさん)

巨大な水槽で泳ぎ回るイワシの群れが美しく見てとれていました。悠然と泳ぐエイやサメ、前足を同時に動かして泳ぐ大きな亀の姿が印象的でした。

地域でお互いにつながりをつくる集いの場、仲間同士の支え合いの場として生まれた『ふれあい・いきいきサロン』。
本年度は公津の杜、台方、下方、飯仲地区の皆さんを対象に、「大洗・那珂湊へのバスの旅」が実施されました。行楽日和のもと、大型バス3台に93名の参加者に乗せ、一路バスは大洗水族館へ。



次は、太平洋を臨む「潮騒の湯」で食事。新鮮な刺身に舌鼓を打ちながら昼食を堪能しました。
最後は、めんたいパークと市場でお買い物。海の幸を沢山買って楽しいお買い物タイムになりました。帰路のバス。添乗員さんから「今日の旅行は如何でしたか？」と聞かれると、即座に「楽しかった!」と大きな

参加された方からの感想

3月14日、社会福祉協議会主催『ふれあい・いきいきサロン』バス日帰り旅行に初めて参加させて頂きました。当日は皆、上着を脱ぐほどの暖かさに恵まれ、公津の杜駅を9時30分に出発しました。大洗水族館でキラキラ光るイワシの群れに遭遇し、ひと飲みになれそうな大きなサメに出会ったり、「この魚美味しいよね」と日常食べている魚を見たりして、ふわふわと綺麗に舞うクラゲに癒やされ、5年ぶりに見学出来てとても穏やかな気分になりました。昼食は「潮騒の湯」で桶に入った華やかな美味しい和食を頂き、めんたいパークで試食をし、明太子やめんたいマヨネーズと、夕食に大きなおにぎりも買いました。那珂湊おさかな市場では新鮮なお魚や干物を買って、一日があっという間に過ぎてしまいました。「ゆつくり出発、早めの帰宅でよかったね」と和気あいあい話しながら帰りの足取りも軽やかに、5時頃無事帰ってくることができました。

楽しい一日をありがとうございました。

(公津の杜一丁目 泉水 文子)



返答があり、みんな一斉に拍手をしていました。水族館見学や食事、買い物で、リフレッシュできた楽しい一日でした。



認知症の周辺行動の
理解と対応を学ぶ
～チームで協力して～

一月二十六日、公津地区コミュニティセンターで、グループホームきさら公津の杜の櫻井淳子さん、阿部弥生さんを講師に招いて、認知症の方の理解と対応の仕方についての研修会が行われました。グループホームでの体験に基づいて分かりやすく解説してくれました。

認知症の方と接するときは、まずは支援する人の心を整えること。イライラしたり、できなかつたことを後悔して自分を責めたりしないで周りに助けを求めること、問題が起きた時

はいったん離れること、ストレスをためないでリラックスして対応することを教えて頂きました。

認知症が進んでも、最後まで残されるものの一つが感情で、「うれしい」「好き」「楽しい」「嫌い」「悲しい」「苦しい」などがあります。そのため、驚かせたり、急が



せたり、自尊心を傷つけることのないように関わることが大切です。具体的な関わり方としては、

①見守り、ゆつくりと待ち急がせないこと

②目線を合わせて、ゆつくりとした口調で接すること

③責めず、怒らないこと

④話に耳を傾けること（うなずいて言っている言葉を繰り返すなど）

⑤できることを探し出すこと

⑥「ありがとう」の気持ちを伝えることがあげられます。

「グループホームでの対応は理屈より感情を大切にしています」と述べていました。

私たちが支援するのは「認知症の人」ではなく、認知症という障がいを持った「人」です。支援者が一人で問題を抱え込まず、チームで協力して対応をしていくことの大切さを学びました。



スマホセミナーを受講して
～ソフトタッチで操作を～

六月二十八日に、成田市保健福祉館で、スマートフォン操作の仕方のセミナーが開かれました。

ソフトバンクの山崎健彦さんを講師に招きました。

スマートフォンの特徴、実際に体験、受講後のサポートの順で説明して頂きました。

受講の内容は

①マップ（地図）の情報の調べ方

②カメラを使って情報を得る方法

③ラインを使って友だちとの情報のやり取りの仕方

④ビデオ通話の仕方

マップの機能を指でソフトタッチすると現在位置が現れ、音声で行き先を入力すると経路、時間が表示されるだけでなく、電車賃も表示されました。

撮影の機能を使うと、商品の情報を得る方法で、値段や中古品の写真が表示されました。家電店などの店頭では、お客さんがこの機能を使って商品の情報を得ている姿をよく見かけます。

ラインは、友だち登録をすれば、やり取りがすぐできるようになります。メールとは違って「既読」機能が着いているので、相手の方が読んだかどうか分かります。特に災害時に活躍したため、一気に使用が広まったそうです。

ビデオ通話は、遠距離の方と顔を写し合って会話ができ、健康状態など把握ができ、会わなくとも相手の様子が分かります。

このセミナーでスマートフォン の便利さに驚き、あつという間の2時間でした。世界的に瞬く間に使用が広まったことが改めて理解できました。

その他の機能を知りたい方は、お近くのソフトバンクにご相談ください。「予約するとサポートを無料で、受講することが出来ます」とのことです。



福祉体験学習

地域で育つ優しさの種

七月五日（金）、公津の杜小学校五年生四クラスを対象に福祉体験学習が行われました。

事前説明後、二人一組になり、体験とサポートを交代で行います。車椅子が動き出すと体験者から「怖い！」と不安の声も…。サポート者は安心できるように声掛けをしながら、車椅子を押し、段差や坂を登ります。



車椅子は重くて大変！
ちょっとコツが要ります

白杖体験では目隠しをし、白杖や点字ブロックから情報を集め、介助者の言葉を頼りに進みます。同じく目隠しをした状態での食事のサポートでは、物がある方向を時計の針の位置で伝えるクロックポジションを学びました。

9時の方向に
コップがあるよ



体験後の感想

「自分にとっては、なんともなくても、不自由な人にとっては何十倍も何百倍も大変なことだとかかりました」



点字ブロックの
丸はストップ！

ボランティアメンバーからは「これからは勇気を持って声を掛けてもらえるといいです」と児童へ向けてメッセージが送られました。

この体験を通して児童たちが、声を掛け合い、気軽に手を差し伸べ合う地域の一員に成長することを願っています。

元気いっぱい！ 江井須元気クラブ 「ひまわり」

5月8日、江井須元気クラブにおじゃましました。今回は、地区内散策。

前日、大雨で天候が心配でしたが、時々、晴れ間もあり絶好のお散歩日和でした。

10時にメンバーが集合し、江井須公民館をスタート。途中、畑仕事をされている方と話が盛り上がり、同じ趣味の話は、楽しそうでした。目的地の橋賀台公園で休憩。広々としていて子どもが喜びそうな素敵な公園でした。帰りは、ちよつと近道を。11時半、江井須公民館到着。軽く体操をし、終了。

参加者の声

毎回楽しく参加しています。ここに来て元気をもらい日々充実しています。いろいろなことを知る情報源です。

★江井須元気クラブは第2水曜日。江井須公民館で活動しています。

編集後記

社協便り26号をお届けします。9月とはいえ、まだまだ暑さが残る季節です。喉が渇く前に水をこまめに飲むように心がけ、脱水予防に努めましょう。また、カフェインをできるだけ避けることもポイントです。《編集委員》石原幸二・鎌田薫・櫻井淳子・鈴木亜希子・谷亮子・丸広美

気持ちいいね～



また、きたいね

